【140】

氏名	鯉田英昭（こいだ ひであき）
学位の種類	医学博士
学位記番号	論医博第466号
学位授与の日付	昭和44年1月23日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文題目	**歯胚移植実験に関する基礎的吟味**
論文調査委員	（主査）教授 西村秀雄　教授 美濃口玄　教授 岡本道雄

論文内容の梗旨

著者は生後2～4月の幼犬を研究材料に用い，それより摘出した歯胚を自家，同腹または他の同種動物に移再植し，歯胚の生着およびその発育におよぼす移植免疫反応等についての基礎的研究を進め次の結果をえた。

1) 摘出歯胚を同一動物の歯胚摘出窩内に自家移再植すれば歯胚は床周壁と速やかに組織的結合を完成し発育萠出を継続することが可能である。

この場合実験動物の月令に関係なく移再植歯胚は生着し発育を継続するが灰化度の高い成長歯胚の歯乳頭組織は幼若なものに比較して，術後に形成された象牙質は劣弱な骨様構造を示す傾向がみられた。

2) 同腹動物の相互間において歯胚を交換移植した場合，自家移植と同様に良好な発育傾向を示し，歯胚は床周壁と生着して発育萠出し，移植免疫反応の出現はほとんど認められなかった。

3) 歯胚を他家動物に移植した場合，移植免疫反応は著明に現われ，術後血管は高度に充血拡張してついに破綻し，広汎囲に出血巣を現わすものと，移植後床周辺組織よりの血管新生は疎で高度のリンパ球の浸潤を来たすものとがあり，またこの両者が同時に出現するものもみられた。これらの移植免疫現象は移植後3～4日後においてすでに発現し，時日の経過とともにこの反応はますます顕著となり，歯胚は遂に発育を停止して異物化され吸収排除の転機を示した。

歯胚の吸収排除される速度はリンパ球の浸潤著明な型のものは出血像の顕著なものより速やかであった。

4) このような移植移免疫反応像の出現状況には動物相互の生長度（年令）によって特に差異は認められなかった。

5) 他家移植の場合，受容動物に抗癌性抗生物質およびステロイド系薬物を投与することにより移植免疫反応の緩徐が明らかに認められ，移植歯胚はある程度発育する経過がうかがわれた。

6) 他家移植（同腹動物をふくむ）の場合，免疫現象の出現状態には動物相互の性別による差異は特に

認められなかった。

論文審査の結果の概旨

本研究は歯胚の発生についての寄与を行なう目的で，幼犬からの材料について歯胚部への移植実験を行なったもので，特にその生着の良否に与かる条件の検討を主眼とした。

まず，自家移再植の場合にはよく生着し，萠出にまで至るが，やや発育は遅延した。次に同腹動物への移植の場合も，自家移植とほぼ同様な所見が得られた。次に他家動物の同種歯胚部へ移植した場合，供給および受容動物の年令差，性にかかわりなく日を経るとともに歯胚内に出血巣またはリンパ球の浸潤が起こり，次いで吸収排除の傾向が示された。この吸収は，リンパ球の浸潤の著明なもので速やかであった。次に他家移植の場合，受容動物にマイトマイシン，またはプレドニゾロンを投与したところ，拒絶反応と見られる変化は軽減した。

本実験は歯胚の移植に関して，一定の新知見を提供したものであり医学博士の学位論文として価値あるものと認める。